

中学生の「税についての作文」 福岡県知事賞受賞作文を紹介します

▽問い合わせ 課税係
(02233・3534)

昨年、国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が全国の中学生を対象に税の正しい知識と理解を深めてもらうために、租税教育の一環として作文を募集し、入賞作品が表彰されました。

今回は、福岡県知事賞を受賞した芦屋中学校3年生の花田朋香さんの作文を紹介します。芦屋町長賞を受賞した松尾琢磨さんの作文は、2月号で紹介しています。

税と共に生きる1人1人

芦屋中学校 3年 花田 朋香



定した指定難病です。

現代の医学が発達しているため、適切な治療をして症状を抑えられれば、健康な人と変わらない

私は、「クローン病」という難病にかかっています。この病気は、口腔から肛門こうもんにいたるまで消化管じょうかんのどの部分にも炎症が起こる厚生労働省が指

日常を続けることができます。それでも、定期的な検査や点滴による治療をしなければいけないため、月に一度、入院する必要があります。

どのくらいの医療費がかかるのだろうと思いに聞いたところ、一度の入院でも数十万円の医療費がかかると言われました。その治療費を毎月払わないといけなくなるため、母子家庭である我が家だけではとても払えるお金ではありません。

しかし、私の住む町には、「子ども医療費助成制度」というものがあり、町が医療費を全額負担してくれています。また、大人になってからでも「難病医療費助成制度」により医療費の多くを助成金がまかなってくれるのです。実際に自分自身が難病になったことでこのような制度があることを知り、制度に使われている医療費は、皆が払ってくれている税金によって成り立っているということがわかりました。

医療費助成制度で医療費の自己負担が減って、治療が受けられなかった人が受けられるようになった一方、無料だからといって受診する必要のない軽い症状でも病院に行く人もいます。おそらく、税金を納める人の多くは、支出ばかりでマイナスのイメージを持っていると思います。中には

納めることが、ままならない人もいるでしょう。それでも、払いたくない気持ちを抑えて納めてくれています。なのに、タダだからと言って必要以上の薬を処方してもらうことはないことなのでしょうか。これでは、税によって自己負担が減っているはずなのに、逆に一人一人の負担が大きくなってしまっています。

先日、入院したときに、母に頼んで実際にかかる医療費を説明してもらったことで、自分になにもたくさん税金が使われているのだと身近に感じるようになりました。私たちの医療費は、無料であって決して0円ではありません。たくさんの方が納めてくれる税金によって支えられているのです。そのことを私たちは常に心に留めておくべきだと思います。

私たちのすぐそばに税金は存在します。今適切な治療を受けられているのも紛れもなく税からなる制度のおかげです。私は他の人よりも多くの税金を使っています。だから、大人になったら恩返しをする義務があるのだと思います。これからは、私たち家族のような人々を支えるために、人よりたくさんの方の経験や知識を身に付けて積極的に税を納めていきたいと思っています。

「手作り創作品のぬくもりをあなたに！」
年末恒例の「クラフトマーケット」を開催しました

令和4年12月1日～24日、クリスマスや正月を控えてわくわくする季節に、ボランティア活動センター恒例のイベント「クラフトマーケット」を行いました。

クラフトマーケットは、ボランティア活動センター登録団体や創作活動を行っている町内福祉施設などが出店し、心を込めて創作したハンドメイド作品を、展示・販売するイベントです。

今回も、鍋敷き、コースター、カーテン、アームカバー、バッグ、メガネケース、キーホルダー、髪かざり、刺しゅう入りのTシャツ、毛糸で編んだペットボトル入れなど、暮らしをより明るく豊かなものにする創作品が約300点出展



されました。作品が並べられると会場がぱっと明るくにぎやかになり、見ているだけでも楽しくなりました。

来場者の皆さんも、思い思いに作品を手に取り「あら、素敵。上手に作っているわね」「どうやって作ったのかしら」と、手作りの温かみに触れながら、その出来栄えに感心していました。また、出店者同士の会話も弾み、作品作りの苦労話や作り方など、今後の創作活動のヒントにもなったようでした。

今後、より多くの人と、まだ見ぬ素敵な作品との出会いの場になるように、趣向を凝らして企画したいと思います。次回のイベントもお楽しみに。



差別をなくすために 第453号

芦屋町人権・同和教育研究協議会
▽問い合わせ 社会教育係 (☎223-3546)



一人一人が変わる事

芦屋東小学校6年 松尾 莉緒

現在、スマホを持つ小学生が昔よりとても増えています。そのせいでSNSなどで知らない人ともつながれる時代になっていて、私は、少し不安に感じることがあります。

いじめの形も昔と少し違って、友だち同士でグループを作り、そのグループの中でのいじめが増えていと思います。スマホなどで連絡がとれるなど、便利になってきてはいても、その中で、いじめに発展してしまうケースを考えると便利すぎるのもどうなのかと考えてしまいます。

私は友だちとのコミュニケーションが得意な方ではありません。けれど仲の良い友だちとは、自分のペースで話をしています。時々、この先いじめられたら、どうしようという悩みもあります。言われたら傷つく言葉、態度など、私は言わないし、言っている友だちがいたら止めていきたいと思っています。それでも今も昔もいじめが無くなっていないのは事実です。そこで、一人一人が決してしてはいけないという自覚を持つ事が大事だと思います。そのため

には、相手を思いやる気持ち、友だちの悪い所ではなく良い所を見つける。優しい言葉づかいで話をする。クラスの中での差別に大きいも小さいもないと考える事が大切だと思います。

私は、いじめは、相手を傷つけるだけではなく、相手の将来、命までも奪うこともあるという事を考えないといけないと思いました。一人一人みんな性格や考え方、体型など違うし、自分だけの意見を押し付けるのではなく、みんなと話しながら伝えていくのが良いのではないかと思います。いじめはデリケートでとても難しい問題ですが、みんなの勇気ある言動で少しでもいじめが減るといいなあと考えました。私も日頃からの生活を見直し、友だちに優しく、困っている人を見つけたら声をかけ、誰かを支えてあげたいです。

※この記事は、町内の小中学生が「人権」をテーマに書いた作文で、提出された作文の中から芦屋町人権・同和教育研究協議会が選考したものを掲載しています。